



日 時	2022年 7月 22日 (金) 18時 00分 ~ 20時 05分
場 所	板橋区立若木小学校 多目的室
出席者	23名(【地域委員】7名、【行政委員】3名、【若木小学校教員】13名)
欠席者	2名
傍聴人	2名

議事内容

1 委員長挨拶

2 校長より

(1)出席している教員の自己紹介(18:01~)

教員紹介自己紹介、CS委員自己紹介がそれぞれ行われた。
委員長がオブザーバー紹介及び参席承認の確認を行った。

(2)1学期の振り返り(18:05~)

(3)現在の状況(5年移動教室に向けての対応)

校長が資料をもとに学級の荒れへの対応について説明した。ここでは、児童の様子、学校支援地域本部の支援、さらには移動教室に向けての対応について説明があった。なお、5年1組保護者からは、5年2組の保護者にも参加していただく形の合同保護者会の開催の要望があり、8月上旬に再設定する予定であることを伝えた。

(4)今後の方策

校長が、7/21,22に改善会議を開催したことについて資料をもとに説明した。21日は小グループで、22日は全体で討議した旨、合わせて紹介した。なお、ここでは、ルールの徹底、家庭の啓発、地域の力を借りながら学校作りをしたいと述べた。結論としては、話をまとめ切ることはできなかったが、教員の考えや思いのすり合わせを今後もしていきたい旨話された。最終的には、8月31日のCS委員会での承認に向けて動きたいことが語られた。

3 熟議(18:35~)

熟議①「当たり前を当たり前～規範意識向上のための学校・保護者・地域の連携した取組」

熟議②「若木小学校の教員に望むもの」

委員からは、学校でルールを作成する際に、学校の教員や都合に偏り過ぎず、児童や保護者さらには地域が納得できるような指導である必要があるとの意見が出た。一方で、人の話を聞くことや他者に迷惑をかけないことなど当たり前の指導を当たり前のように行う必要性が語られた。このほか、そもそも若木小の教員が現在の状況をどのように捉えているのか、率直な意見や考えを語ってほしい旨、意見が出た。これに応える形で、若木小の教員からは現状指導が必ずしもうまくいっていないことに対する悩みや、コロナ禍により様々な取組が取りやめざるを得なかったことに対する思い、困難を抱えた学級に対して支援に回りたいものの、時間的な余裕がないこと、ステップアップ教室など特別な支援を要する児童がいるものの割当の枠が不足していることなどが語られた。

今回は、従来1時間程度で終了していたCS委員会の時間を拡大し、主として教員らの悩みや日頃考えていることをできるだけ多く聞く機会として設定した。そのため2時間程度の時間を費やしている。CS委員には長時間にわたり時間を割いていただいたことに感謝したい。また、教職員らにあっても、率直な意見を述べて頂く機会となり、任意での参会に協力頂いたことに感謝したい。なお、年度当初の予定とは学校が抱えている課題の状況が異なっていることから設定時間を延長したが、必ずしも十分な時間設定と言えない部分があった。今回の熟議テーマは次回以降に持ち越すとともに、今後もより一層率直な意見が出しあえるような実のある会としたい。

4 次回以降の予定

学校側の原案をもとに、一部日程を修正する中で、以下のように決定した。

第1回 令和4年5月21日(土) 14:00~15:30 ※AM 主曜授業

第2回 令和4年7月22日(金) 18:00~19:30 ※前期評価について

第3回 令和4年8月31日(水) 13:30~15:00 エリア合同 15:15~

第4回 令和4年12月17日(土) 14:00~15:30 ※学校評価 ※AM 土曜授業

第5回 令和5年2月22日(水) 18:00~19:30 ※次年度の経営方針について承認確認

※2022年度は、昨年度課題であった、教職員との熟議の場を設定するため、8月31日(水)午後を予定した。

※破線部は第2回CS委員会を経ての変更点である。

以下、議事の中では時間の制約により取り扱えなかったものの、これまでのメール会議等により、CS委員会で話題になったことなどをコラムとして掲載する。

【column1】CS委員会からの要請について

今回のCS委員会において、教員よりSTEP UP教室に通わせの方が良い児童が複数いるものの、巡回指導教員に限りがあることから、指導を必ずしも受けられていない児童の存在が明らかになった。この点については、CS委員会として若木小学校における指導の充実のために、割当枠の拡大等を検討いただけるよう区教委に要請することとした。

【column2】学校を支える皆様について

若木小学校では、これまでも様々な教育活動等において保護者や地域の方々の支えで成り立ってきた。

保護者にあっては、例えば学校が教育活動を行うために必要な物品の準備、指導が至らぬ部分についてのフォローなどが考えられる。また、学校の教員が言って聞かぬ部分を保護者がわが子に説く部分もあったかもしれない。またさらに、家庭科における裁縫指導や調理実習における授業支援もあったことと思う。読み聞かせ等も保護者支援である。これに加え、PTAでは役員の方が中心に学校を支えてきた。本来、PTAは、「P=Parents(保護者)、T=Teacher(先生)、A=Association(組織)」であることから、保護者のみが活動するのではなく、保護者と教員のかかわりがあるこそ、円滑に組織されるものであろう。しかし、多くの学校では必ずしもそうっていないのではないかと。そして、若木小はどうだろうか。

地域の方にあっては、土曜公開などにおいて、卒業生の元保護者の方が受付を担っていただいたりしている。この事実を知らないと、教職員が仕事として受付業務をしているように見取ってしまうが、今一度、こうした地味な支えをして下さる方について、教職員や児童ならびに保護者の方は認知してほしい。寺子屋なども地域の方々の支援と言えよう。

またさらに、今回、複数の学級等で指導が思うように行かない際にも、学校支援地域本部が中心となり、ボランティアの方々による見守りに入っていただいている。CS委員会としても、改めてこうした方々に感謝を申し上げたい。また、CS委員お一人お一人においても、家庭や仕事といった本務とは別に、時間を割き、学校のために尽力いただいていることに改めて感謝申し上げたい。

CS委員会では、昨年度も教職員の方に、参会のお誘いを行った。勤務時間の制約があることから校長からではなく、CS委員会から任意での出席を求めた。アンテナ高く参加いただいた方もいた。今回は、学校が厳しい状況を共有するためにも、任意で多数の教職員に参会いただいた。この時間は、いずれの参会者も仕事という枠を越えて、ボランティア的要素の色濃い時間を共に過ごすことができたことに価値があると言えるのではないかと。

学校は残念ながらまだまだ保護者や地域に開かれているとは言い難い部分があるだろう。また、保護者の気持ちに寄り添えているとは必ずしも言えないのではないかと。今後も、若木小教職員には、外の世界の人々と積極的に関わっていただき、児童らの指導にあたってほしい。これにより、困難な状況に遭遇した際に、保護者や地域から支援を得やすくなるのではないだろうか。

最後に、児童らにあっても、教職員や保護者、地域の支えについて知るとともに、特に困難な状況にある学級においては、今何が自分たちに求められているのか。大人たちに何を求めるのか、じっくりと考え、行動に移してほしい。

【column3】CS委員会からの教育活動支援について

現在、学校は一人一台端末の効果的な活用が求められている。学校間格差や教員格差については、全国いずれの自治体でも発生している。しかし、学校においては格差に臆することなくまずはできる教員が取組、学校全体のボトムアップに努めてほしい。なお、CS委員会からの支援として、一学期末に、ポプラ社に要請し、電子書籍読み放題サービスのデモアカウントの提供を受けた。主として、低学年の担任用として9月末までの利用が可能であることから、活用してほしい。またさらに、あいキッズ用としてもCS委員会管理のもとデモアカウントの貸与を行っている。

<https://kodomottolab.poplar.co.jp/mottosokka/yomokka/>



※モニターに表示される作品は、著作権の関係で差し替えいる。

【column4】水泳指導について

若木小に限らず、コロナ禍において、昨年度よりも充実した水泳指導が各校で展開されていると聞く。水泳運動については、適切な水泳場の確保が困難な場合には、安全に行うための心得について取り上げるのみとする場合があり、コロナ禍により全国的にこのような心得だけの指導の年度もあった。今年度は、実際に入水する中での指導が行われている。残念ながら夏季水泳については、本校はかなわなかったことから、今年度の水泳指導は一学期で終了していると聞く。また、次年度の指導に期待したい。

配布資料	【学校側配布資料】		
	(1) 令和4年度 第2回若木小コミュニティ・スクール委員会 次第 (2) 若木小学校 子供のルール (3) 若木使用学校/子供の約束 (4) 若木学習スタンダード (5) 若木小学校 校長室だより どんまい vol.7 (6) 第2回若木小コミュニティ・スクール委員会資料		
作成者	CS委員長	確認者	校長